様式１（小・中）

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和３年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	嬉野市立五町田小学校

1　前年度 評価結果の概要	・会議や研修について見直しているものの、コロナ感染症対応による職員の負担感、行事の変更等で時間外勤務も前年度と比べてあまり変わらなかった。また、児童対応の事案については、他の外部機関との連携・協力により担任が一人で抱え込まない体制が整い、負担軽減につなげることができた。 ・コロナ禍の中で「学び合い」を活用した授業づくりができず、前半は一人学びの時間を設定したことから、自分の考えを書くことに対して少しずつ抵抗が少なくなってきた。基礎学力の定着のために全職員で取り組んだことで、学力向上につながった。引き続き、学校が一つになってこの実践を行っていく。 ・キャリアパスポートが効果的にじっしされてよかった。次年度も学年相応に丁寧に推進していく。 ・児童は安全で落ち着いた学校生活を送ることができた。さらに、自己有用感を高め、人付き合いの仕方や自分の気持ちの伝え方等を学習するためのＳＳＴを取り入れると共に、日常の教育相談を丁寧に行っていく。 ・体力・運動能力の向上に向けて環境整備を進める。また、家庭生活リズムづくりの中で、特に、テレビゲーム等の時間が守られていない状況も見られる。さらに、家庭との連携を図る。
2　学校教育目標	かしこく　やさしく　たくましく ①かしこい子(主体的に学び、集団の中で生き生きと活動できる子ども）②やさしい子(自分で考え行動し、他者と協力できる子ども)　③たくましい子(心も体も健康で粘り強い子ども）
3　本年度の重点目標	①全ての子どもが「活動する喜び」「分かる・できる喜び」「教え合い・学び合う喜び」「追求・工夫する喜び」を感じられる教育活動を推進し、学力の向上を図る。 ②全ての子どもに「関わり合いの中で生き生きと学ぶ」機会を作り、「学校に行きたい」と思える期待感の向上を図る。

4　重点取組内容・成果指標　**中間評価**　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・学習状況調査の採点を通じて、課題や手立てを出し合い、共有化を図りマイプランをたて検証する場を設ける。	A	・職員アンケートでマイプランを達成した教師の割合が93.3%になった。	A	・職員アンケートでマイプランを達成した教師の割合が100%になった。
	○学び合いを取り入れたわかりやすい授業の実践	○「授業がわかりやすい」「進んで学び合いができた」と回答した児童が90%以上。	・授業の中で、自分の考えを持つ場や学び合いの場を設定する。 ・思考を助ける掲示を活用したり、発問を工夫して、学習内容の理解を図る。	A	・児童アンケートで「授業がわかりやすい」(96.9%)「進んで学び合いができた」(83.9%)と回答し、平均すると回答した児童の90%を超えた。 ・学び合いの場で児童同士の考えの交流が見られた。	A	・児童アンケートで「授業がわかりやすい」(98.4%)「進んで学び合いができた」(92.6%)と回答し、平均すると回答した児童の90%を超えた。 ・年間を通して、学び合いの場で児童同士の考えの交流が見られた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートを通して実践したいと回答した児童が90%以上	・年に2回アンケートを実施 ・道徳の授業・体験活動の充実 ・人権集会	A	・6月の授業参観で保護者にふれあい道徳の授業を公開した。 ・第1回目の学校評価児童用アンケート「道徳の授業で学んだことを大切にしたいと思う。」の項目で95．8%だった。	A	・人権月間として、学級の行動宣言やきらりの木に取り組んだ。人権集会では、相手を思いやる言葉の大切さについて話をしたことで、挨拶や言葉に気をつけようとする意識を高めることができた。 ・第2回目の学校評価児童用アンケート「道徳の授業で学んだことを大切にしたいと思う。」の項目で、98．4%だった。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見、早期対応 ○問題行動等について職員間での情報共有率100%をめざす。 ○QUテストにおいて1学期よりも2学期は満足群を増やし、要支援群を減らす。 ○「学校が楽しい」という児童の割合が90%以上	・日常の観察を心がけ、子どもの小さなつぶやきを見逃さないようにする。また、子どもが相談しやすい雰囲気作りを行う。 ・月一回の仲良しアンケートや年2回のQUテストを行う ・週に1回児童情報共有会を行う。 ・子供同士で認め合うような学級づくりに努める。	A	・QU研修会を通して、夏休み以降の具体的方策を立てて、実施していく。 ・毎週月曜日に児童情報共有会の時間を設け、職員間で情報共有を行っている。 ・第1回目の学校評価児童用アンケート「学校は楽しい」の項目で、96．3%だった。	A	・QU研修会で立てた具体的方策を各学級で実施することができた。さらに、2回目のQUテストを実施したところ、満足群が増え、要支援群を減らすことができた。 ・問題行動が起きた時には、すぐに情報の共有を行い、職員同士がチームで関わることができている。 ・第2回目の学校評価児童用アンケート「学校が楽しい」の項目で、97．4%だった。
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎めあてをもって実践しようとする児童を90%以上	・キャリアパスポートの活用を図る。 ・生活や学習において自分のめあてや見通しをもたせて、活動後のふりかえりを行うことで自分の成長へつなげていく。	B	・第1回目の学校評価児童用アンケート「めあてをもって取り組む」の項目で、96．3%だった。 ・キャリアパスポートは、めあてを立てて、取り組みを始めたところである。	A	・第2回目の学校評価児童用アンケート「めあてを持って取り組む」の項目で、97．4%だった。 ・キャリアパスポートをうまく活用したことで、子ども達がめあてや見通しを持って活動することができていた。
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	●「生活・家庭学習チェックシート」を活用し、生活習慣に関する項目が「できた」と答える児童が90%以上	・「生活・家庭学習チェックシート」の①早起き　②り朝ごはん　⑥歯みがき　⑧テレビやゲームの時間　⑩ふとんに入る時刻　項目を意識して生活をさせ、自分の生活を振り返らせる。また、時間や時刻については、家庭で話し合って決めてもらう。 ・「生活・家庭学習チェックシート」の意識づけを図るととに、結果について情報を発信し、保護者との連携を図る。	A	・規則正しい生活（早寝早起き・朝ご飯・歯磨き・テレビやゲームなど）ができていると答える児童95.8%。 ・生活習慣チェックシートをチェックし望ましい生活習慣への意識づけを行っていく。	B	・規則正しい生活ができていると答える児童95.7%、保護者89.8%。 ・「生活・家庭学習チェックシート」では、①②⑧については、90%以上達成している。⑧は、95%達成だが、保護者アンケートでは、73.4%。昨年度より10%ほど上がり、意識付けができつつあるが、まだ十分とはいえない。今後も継続して、児童、保護者に意識付けを図る必要がある。⑩87%。布団に入る時刻の設定を家庭で相談し守るようにと働きかけたが、まだ達成するのが難しいところが多かったようである。
	○体力づくり	○体育やスポーツチャレンジなど、「自分の記録を伸ばそうとがんばっている」と答える児童が90%以上	・体育学習の充実を図り、体育の時間やマラソン大会などにおける自己の記録向上に向けての意欲を高める。 ・佐賀県スポーツチャレンジに参加することを通して、運動の楽しさや競争することの楽しさを感じさせる。	A	・体育やスポーツチャレンジで、「自分の記録を伸ばそうとがんばっている」と答える児童が95．8% ・体育の時間に目標を持たせて取り組むことができている。スポーツチャレンジにも取り組む予定。	A	・体育やスポーツチャレンジで、「自分の記録を伸ばそうとがんばっている」と答える児童が98．4% ・マラソン大会に向けて、タイムを伸ばすように目標を持たせたり、マラソンカードを使いマイペースマラソンに取り組んだりすることで、自分の記録を伸ばそうと頑張る児童が増えた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限（月45時間）を遵守する。	・定時退勤日（第１金曜日・第３水曜日）の推進	B	・全職員の4月から7月までの時間外勤務時間の平均は37時間だった。上限の45時間を超えた職員もいた。 ・夏季休業中、5日間の学校閉庁日だけでなく、年次休暇取得促進の声かけにより、教職員が休みやすい職場環境作りに努めている。	A	・全職員の8月から12月までの時間外勤務時間の平均は27時間だった。4月から7月までの中間評価から10時間の短縮ができた。4月から12月の平均は30時間であった。 ・冬季休業中は、12月27日、28日、1月4日、5日は研修等を入れなかったため、年次休暇取得促進につながった。
	○計画的・効率的な業務の遂行	○「計画的・効率的に業務を進めている」と自己評価する職員の割合が90%以上を目指す。	・学校行事やプロジェクトの活動を見直し・精選を行い、年間計画にもとづき、見通しをもって業務に取り組む。 ・校務フォルダーの整理を推進し、業務の効率化をめざす。	A	・「計画的・効率的に業務を進めている」と答えた職員の割合が94.4%と高い割合だった。 ・夏季休業中、職員研修を8月の2～6日の週に集中的に計画し、効率的に行った。	A	・「計画的・効率的に業務を進めている」と答えた職員の割合が94.7%と中間評価より更に高い割合だった。 ・部会の役割分担が適切であり、調査・提出物のやりとりを校務フォルダ内で行うなど、効率的に校務を行う体制が取れた。

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・会議や研修についての在り方を見直し、時間外勤務は前年度と比較して減少しているが、大幅な短縮になっておらず、更なる働き方改革が必要である。 ・児童対応のケース会議を早めに開き、医療機関やＳＳＷ，心の相談員等の外部機関と連携・協力しながら学校組織として取り組んでいる。担任が一人で抱え込まない、学校全体で取り組む体制の確立を図っている。 ・「学び合い」を活用した授業づくりについては、昨年度よりも実践ができているが、コロナ禍の中でまだまだ十分な取組に至っていない。基礎学力の定着を含め、今後も全職員で取り組む必要がある。 ・今年度よりＧＩＧＡスクール構想により、タブレット端末が導入され、高学年を中心に授業での効果的な活用がなされた。学校評価もタブレット端末によるアンケートを行うことができ、活用する上での基礎ができつつある。今後の活用を更に工夫し、学習や生活の改善に積極的に用いたい。 ・情報教育の重要性が増してきている。オンラインゲームの在り方やネットいじめ等、家庭と連携した情報教育を推進することが必要である。